



フジサンケイグループ

東京リビング

サンケイリビング新聞社

月3回、木曜日の産経新聞に折り込まれます

「運ぶエコ」に取り組む企業や商品がわかるエコレールマーク

国土交通省鉄道局 貨物鉄道調整官 野澤和行さん

話題人登場



プロフィール●1988年、国土交通省入省。鉄道局をはじめ、海事局、海上保安庁、北陸信越運輸局などで勤務。2006年4月から現職。「週末は家事や育児に追われる日々」と言う。

「エコレールマーク」(左下)を知っていますか?

「このマークは鉄道貨物輸送を活用して、地球環境問題に積極的に取り組んでいる企業や商品であることを表示するマークです」と話す、国土交通省鉄道局貨物鉄道調整官・野澤和行さん(43)。

「同じ距離を運んだ場合、鉄道は二酸化炭素(CO₂)排出量が家用トラックの約45分の1、営業用トラックの約8分の1と、環境負荷の少ない輸送手段といえます」

しかし、一般の消費者は商品がどうやって運ばれてきたかを知る手段はこれまでなかった。「運ぶエコ」に取り組む企業や商品を目に見える形で表そうと一昨年4月に作られたのがこのマークです」。

鉄道貨物輸送の定期的利用に取り組んでいる、原則として一般消費者向けの商品を製造している企業が対象。マークの認定基準は、500km以上の陸上輸送に鉄道を

①30%以上利用している商品②15%以上利用している企業。

エコレールマーク事務局を(社)鉄道貨物協会に置き、諮問機関として「エコレールマーク運営・審査委員会」を設けて、申し込みのあった商品や企業について審査・承認を行っている。

「現在、8商品、31企業が認定を受けており、商品や梱包している段ボール箱に表示されているほか、企業のホームページやパンフレットなどに掲載されています」

最近認定された商品では、パナソニックモバイルコミュニケーションズの携帯電話や、ブルボンのイオン水、天然名水出羽三山の水(いずれも500ml)などがある。

「みなさんが買い物をする際、商品を選ぶ目安の一つとして、このマークをチェックしてください。消費者と企業が一体となって環境負荷低減を目指しましょう」

(川戸眞澄)



エコレールマーク